

# Saidaiji JC Report



社団法人 西大寺青年会議所  
第51代理事長 井上 裕嗣

## 2011年度 スローガン及び基本方針

### スローガン

Imagine

～ すべては未来のために ～

### 基本方針

未来を心に思い描くこと  
明るい豊かな地域の未来を実現すること  
子どもたちの未来を守ること  
青年会議所の未来を信じ続けること



## スローガン「Imagine」について

2011年度、社団法人西大寺青年会議所は創立から51年目という新たなるスタートラインに立ちました。スローガンには未来へ向けた一歩を踏み出す勇気を込めました。

元来私はスローガンを掲げることが好きではありません。なぜなら、スローガンというものは、会員一人一人が地域のために今出来ることとは何かと考えた結果、各人の心の中に存在していれば良いのであって、会員それぞれのスローガンが私のスローガンと同じである必要は全くないと考えているからです。100人の人間がいるならば100通りのスローガンが存在するのが自然なことであり、むしろ会員それぞれが、独自のスローガンを心の中に持っていたらいいと思うのです。

そこで私は第51代理事長として、本年度の社団法人西大寺青年会議所のスローガンを、青年会議所会員全員がより良い地域の未来像を心に思い描けるように、との願いをこめて「Imagine」（思い描くこと）とさせていただきます。

## 未来を心に思い描くこと

私達が自分達の住まう地域において青年会議所運動を行うにあたって、その道はいつも平坦なわけではなく、そこにはまず自らの進む方向が是であるか否かの自問が胸中にあり、またその自問の先には、往々にして様々な問題が目の前に立ちはだかることとなります。壁を乗り越える過程において理想と現実との大きな差に苦しむこともあります。

しかし、いかなる状況におかれた時でも、自分達の望む未来を心の中に思い描くことを忘れてはならないと私は思います。

目標があるから人は歩むことができるのです。実現したいと願う未来があるからこそ、厳しい現実を乗り越えて行くこともできるのです。

私達を取り巻く環境は決して楽観できるものではありません。しかし、このような時代だからこそ自分がどう在りたいのか、自分が理想とする青年会議所の未来とはどのようなものなのか、心に思い描くことを大切にしていきたいと思うのです。

人間開発の神様とも呼ばれ、米国をはじめ世界中で多くの企業経営者に支持されている、アール・ナイチンゲールは、著書の題名として、次のような言葉を残しました。

“We become what we think about.”

我々は我々の考えているような人間になってゆく

実際に成功した実業家でもあったナイチンゲールは、この言葉を題名とすることで、自分がまずどのような人間になりたいのかを考えることが重要であると述べるとともに、何を心に思い描くかによって



我々はいかようにもなれるのだという、可能性の無限も示唆しているように感じられます。

何かを心に思い描いたからといってそれが現実のものになるとは限らない、しかし何かを心に思い描かなければ、それは決して現実のものとはならないのです。

青年会議所には40歳定年制という厳然たる年齢制限があり、青年会議所の会員として運動できる時間が限られている以上、その貴重な時間をより充実したものにするためにも、心に思い描いた未来に向かって行動することから目を逸らしてはならないのです。

そして、残された時間を悔いのないものとするため、自らに与えられたその一瞬一瞬に全力を尽くす心構えこそが大切であると私は信じています。

今こそ西大寺青年会議所会員全員の英知と勇気と情熱を結集し、地域の理想の未来とは何なのか、この地域に本当に必要な運動とは何なのか、胸襟を開いて語り合い、心に思い描いた素晴らしい未来を現実のものとするために、共に行動しようではありませんか。

望まれる未来は偶然手に入るものではなく、我々自身の手で創り上げるものなのだから。

## 明るい豊かな地域の未来を実現すること

青年会議所運動とはあくまで手段であり、それ自体が目的というわけではありません。それでは青年会議所の目的は何かと問われれば、それは青年会議所が綱領として提唱している、明るい豊かな社会の実現こそがそれであると考えます。

私達は明るい豊かな社会を、私達の暮らす地域「ブルーエリア」に実現するためにこそ、青年会議所運動を行っているのであり、それこそが青年会議所の原点なのです。

私達は過去において原点に忠実であったかどうかと自身を見つめなおし、現在において原点に忠実たらんと自らを律し、未来に向けた思考を常に意識し互いに共有することで、地域の未来に益する運動を行わなければなりません。

わが国は近年、長引く不況や幾つもの疫病、地球温暖化に起因する異常気象や度重なる天災、中国を軸とした東アジア諸国の台頭など、まさに混迷の時代を迎えました。

先の見えない時代と低迷を続ける日本経済を背景として、地域の企業は生き残ることに全力にならざるをえない状況にあり、青年経済人が集う青年会議所もまた、時代の影響を受けて減少してゆく会員数を前に、いつしか事業を維持することだけに、その力の大半を割くようになってしまいました。しかし、混迷の時代を背景とする運動であるからこそ、それぞれの事業の意味や、それがもたらす未来について真剣に話し合う姿勢が必要であると思うのです。まずは、この地域の現実に目を向けなければなりません。

岡山県西部域に比べて開発が遅れた東部域の現状は、今や往時の面影さえなく、通行人の少ない町並みには活気が感じられないのが現実なのです。郷土の誇りある文化を愛し、地域の発展を心から願う西大寺青年会議所だからこそ、地域の繁栄への道を模索する運動を積極的に行わなければなりません。地域の繁栄なくして地元企業の繁栄はないのだから。

ノーベル物理学賞受賞者デニス・ガボールは著書の中で次のように述べています。

“You can't predict the future, but you can invent it.”

未来を見通す最善の方法は、自らそれを創り出すことである

氏が述べているのは、未来とは他よりもたらされるものではなく、自ら創り出すもので、受動より能動を選ぶことこそが、望まれる未来を実現する近道であるということなのです。

署名運動や政府への提言によって政治に地域の未来を託し、自らは何も行動しないという考え方は結局他力本願の思考であり、自発的行動により地域に繁栄をもたらすためには、地域活性化の基礎となる人口を増やすことを念頭に、地域の魅力を引き出す運動を行い、この町に訪れる理由を増やし、この町に住みたいと多くの人に思わせることこそが、地域に真の繁栄をもたらす、西大寺青年会議所のあるべき姿であると私には思えてなりません。

思い描いて下さい、繁栄するブルーエリアの未来を。それがすべての始まりなのです。

## 子どもたちの未来を守ること

私達の親の世代において、日本は貧しい国でした。私自身も私の両親から戦後の日本で日々の糧を得ることがどれだけ大変であったのか、ということを知って育ってきました。

しかし、責任世代の私達が子どもであった頃から、すでに日本は豊かな国であり、今の子ども達が物質



的にさらに恵まれた状況にあるのは間違いありません。それでは今の時代を生きる子ども達は本当に幸せな世代なのかと問われると必ずしもそうだとは思えません。なぜなら、今の子ども達は学校で日常的に行われる「いじめ」や、それを苦にした「自殺」、「不登校」や「ひきこもり」など、深刻な社会問題に翻弄されている世代であるからです。

顕在化してきた子ども達の社会問題を対岸の火事と考えず、私達の暮らす地域において、子ども達が安心して暮らすことの出来る環境を守らなければなりません。

今、子ども達は日本という社会において、自分の夢を想い描くことがとても難しい状況におかれています。子ども達に接する我々大人が社会に自分の夢を想い描くことができていないこともその原因です。また、日本の情報メディアは単一的価値観ばかりを繰り返し報道し、価値観の多様性を訴えるメディアが少ないこともその原因のひとつだと思います。例えば「勝ち組」と「負け組」など、最近の日本の情報メディアが使う表現には、価値観の多様性に乏しいものが実に多いのです。裕福な人は勝ち組で、そうでない人は負け組といった単一的価値観は、短絡的な思考に基づくものです。人がその人生を生きてゆく上で勝ちも負けもありはしない、あるのはただ、自分が自分の人生に納得できているかどうかなのだといった、情報メディアに依らない多様な価値観を、地域の大人達が子ども達に教えなければなりません。単一的価値観ばかりを報道するメディアに影響された子ども達は、その価値観と自分自身の人生が相容れなくなった時に、自分はダメな人間だと思い込み、大変な孤独を強いられることになるのです。

これは、私の敬愛する偉大な修道女マザー・テレサの言葉です。

“The most terrible poverty is loneliness and the feeling of being unloved.”

最も悲惨な貧困とは孤独であり、自分は誰からも愛されていないと感じる事です。

子どもとは本来、多くの人に愛されて、健やかに明るく希望に満ちて育つものです。

これからの青年会議所運動は、子ども達の未来を守ることを考えなければならない、と私は思います。地域コミュニティを活用して子ども達により多くの人と接する機会を与え、人生を生きてゆく上での価値観の多様性に気づくチャンスを与えてあげることが大切だと思うのです。そして、私心なく純粋に子ども達のために行動する西大寺青年会議所には、それができると私は信じています。

子ども達の未来を守ること、それが青年会議所に課せられた責任でもあるのです。

### 青年会議所の未来を信じ続けること

ある地域の方に言われたことがあります。「今の社会は、もはや青年会議所運動を必要としていないのではないか。必要とされていない団体だからこそ、会員数が減少しているのではないか。」と。確かに、僅かな例外を除いて、現在わが国に存在する多くの青年会議所において会員数の減少は非常に深刻な状況にあり、西大寺青年会議所もまた運営に支障をきたすほどの会員数減少に、会員確保の問題は年々その重さを増すばかりです。

年間にいくつもの企業が倒産し、中四国においても多くの企業が赤字決算を続ける今、企業後継者は青年会議所運動にかかる資金的負担と、時間的制約の多さから入会を避けるようになりました。しかしこの地域を心から大切に想い、そこに住まい、西大寺青年会議所の会員として、地域のために自らの時間と労力を捧げてきた者として、いかにこの団体がひたむきに奉仕活動を行い、どれほど真摯に自己修練に取り組み続けてきたのかを知る者として、西大寺青年会議所という名の希望の灯火を決してこの地域から消してはならないと私は思うのです。

まず、私達青年会議所の会員自身が、地域の未来にとって必要な運動を行っているのだという気概と信念を持つことが出来なければなりません。私達は青年会議所運動を見つめなおし自らに問いかけなければなりません。青年会議所のあるべき姿とはどのようなものなのか、そして地域から求められる運動とはどのようなものなのか、と。

英国の学者で進化論の提唱者、チャールズ・ダーウィンは次のような言葉を残しました。

“It is not the strongest of the species that survive, nor the most intelligent.”

“but the ones most responsive to change.”

生き残る種というのは、最も強いものでもなければ、最も知的なものでもない。

最も変化に適応できる種こそが生き残るのだ。



西大寺青年会議所は進化せねばならない。

今という時代を捉え、時代に適した姿へと進化し、生き残ってゆかなければならない。たとえそれが通例として行われていることであろうとも、勇気をもって通例を変える英断が必要な時代なのです。通例を通例のままに行うのではなく、通例に依らず自らの意志をもって運動を行うことが大切なのです。時代が刻一刻と変化している以上、私達もまた、時代に合わせてその姿を変えてゆくことでしか生き残る道はない、と自覚するべきです。

今こそ変革の風を起こす時です。青年会議所の未来を信じ続けること、そして自分達の想いを運動の原動力として、時には熱い情熱とともに、青年会議所の仲間達と全力で邁進して行こうではありませんか。「Imagine」あなたの理想の未来を思い描いてください。

すべては未来のために。



直前理事長 小川大志

新年明けましておめでとうございます。

昨年、西大寺青年会議所は50周年という記念すべき節目を迎えることができました。また周年の年に無事理事長を務め終えることが出来たのも、メンバーそして多くの皆様方からのご支援お力添えの賜物と心より深く感謝致しております。本当にありがとうございました。

本年度は、直前理事長としてLOM運営のサポートをさせていただくと共に、次なる50年の1年目として歩みだした井上裕嗣理事長のもと、少ないメンバー数ではありますが各事業を精一杯頑張りたいと思っております。

また、今年は現役として最後の1年でもありますので、悔いが残らぬよう、そして修練・奉仕・友情の三信条を多く感じられるJC運動ができるよう邁進して参ります。本年度もご指導ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。

本年度、第五十一代井上理事長のもと、藤本委員長が率いる文化継承委員会の担当副理事長を務めさせていただきます。今年度は二度目の副理事長として、昨年の経験・反省をふまえ、しっかりと井上理事長のサポートをするとともに、新理事の藤本委員長には自分が先輩方から教わったことを自分なりの教え方で伝えていきたいと思っております。また私自身、委員会と執行部の橋渡しと言う役目を精一杯頑張りたいと思っております。近年の会員の減少で、我々西大寺青年会議所も本年度十八名スタートとなり、非常に深刻な状態となっております。この深刻な問題を三枝室長のもと会員拡大広報室でしっかりと考え、一人でも多く会員拡大ができるよう力を入れて頑張ります。しかし、何をおいても我々西大寺青年会議所メンバーの団結が一番だと思っております。団結がより一層固まれば士気も高まり、それが各事業を成功に導き、さらには会員拡大にも繋がるのではないのでしょうか。

今年一年間、西大寺青年会議所をより一層盛り上げる為に、皆さんには無理を言ったりする事もあるかもしれませんが、自分なりに精一杯頑張りますので、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



副理事長 長岡智宏

新年明けましておめでとうございます。

本年度、第五十一代井上理事長のもと、副理事長を務めさせていただきます赤木です。本年度は井上理事長の補佐と、新しく役員に就任した國本委員長率いる地域連携委員会が行う事業の補佐をし、一年を通じて執行部と委員会をしっかりとつなげる様頑張っております。

私は本会に入会して四年目を迎えます。まだまだ未熟者の私に副理事長という職を全う出来るのかと混迷しましたが、この三年間で委員長を二度経験する事が出来、この三年間様々な事業に携わることが出来ました。この三年間で培ってきた経験を活かし、一年間副理事長としての職務を全うすべく邁進してまいります。また、本年は十八名スタートと会員も減少しております。皆様のお力を借りながら会員を増やし、明るい豊かな社会の実現に向けて努力して行きたいと思っております。ご迷惑をお掛けする部分があるかもしれませんが一年間宜しくお願いいたします。



副理事長 赤木朋央



本年度、ブロックじゃがいも大会の実行委員長を務めさせていただきます。今年で第82回となります岡山ブロックじゃがいも大会を主管させて頂くにあたりまして、岡山ブロック協議会内各地青年会議所の特別会員及び現役会員が会員相互の親睦を深め、様々な情報交換を行う事を目的とし、また主管LOMの特色を出しておもてなしをすることでLOM内の活性化へ繋げていくことも目指して展開して行きたいと思っております。

今年で入会7年目とちょうどJC生活の折り返し時期となりますが、まだまだ若輩者でございますし、何分初めてのLOM以外の事業を経験させて頂くという事で、緊張しておりますが主管LOMとしての役割を考えながら、同じく初理事の長谷川副実行委員長と試行錯誤しながら進めて行きたいと思っておりますので、どうぞ一年間よろしくお願い申し上げます。



ブロックじゃがいも大会  
実行委員長 塩崎鉄司

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

2011年度は、井上理事長のもと、会員拡大広報室の室長を務めさせていただきます。LOMの活動内容を広報誌の発行などを通して外部の方々に広報していく一方、個人的に非常にプレッシャーを感じている会員拡大に、例年以上に全力で臨もうと思っております。具体的な内容としては、従来の訪問勧誘形式による会員拡大を継続していくとともに、会員拡大に向けた対策会議を定期的に行い、LOMメンバーの会員拡大に対する意識をより一層高めていきます。また、新しい事業を計画して開催することにより、西大寺青年会議所をPRするとともに、地域の方々との新たな交流関係を築きたいと考えています。

そして、年6回発行予定の広報誌を有効に活用し、広報活動とリンクした会員拡大を展開していこうと考えています。2011年度は、18名でのスタートになります。大幅な会員拡大を目指すとともに、メンバー一丸となって地域に貢献できるように頑張っていきたいと思っております。



会員拡大広報室  
室長 三枝克守

新年明けましておめでとう御座います。本年度、第五十一代井上裕嗣理事長のもと、専務理事を務めさせていただきます中山稔之です。井上理事長のサポート役として、またLOMの窓口として、一年間しっかりとJC運動に取り組んでいきたいと思っております。本年度は、社団法人西大寺青年会議所が主管となり、岡山ブロックじゃがいも大会と岡山ブロック会長公式訪問3JC合同例会・合同懇親会がありますので、実行委員会とブロックの運営団の皆様とそして県内各地の青年会議所の専務様と連絡を密に行いたいと思っております。

また、西大寺青年会議所に入会して5年目を迎える事が出来、各役職の担いがだいぶ理解出来てきましたので、LOM内の会議や事業活動が円滑に進んでいくように心がけたいと思っております。特に公益法人制度改革移行のリミットが迫ってきていますので、今年中に申請を関係機関に提出を目指します。特別会員の皆様、現役会員の皆様、どうぞ一年間よろしくお願い致します。



専務理事 中山稔之



2010年は西大寺青年会議所にとって、転機の年であり、決意の年でありました。創立50周年を体験したメンバーは、これからの地域、これからの青年会議所、これからの自分に対し、気づきを得る事が出来たのではないのでしょうか。その気づきは永い人生において一瞬に過ぎないかもしれませんが、やがて大きな力となり、それは具体的な形となって、いつかきっと結果として顕れる事でしょう。

JCは“まちづくり”をする団体ですが、私としては40歳を過ぎ、卒業してからがまちづくりのスタートであると信じています。なぜなら、現役の私には、まだまだ地域と団結する為に必要な“信用信頼”が得られていないからであります。「あいつなら信用できる、あいつなら頼りになるから、まちづくりの相談をしてみよう」といった言葉を頂いた時、初めて地域と団結し、初めてまちづくりが出来たのではないのでしょうか。つまり、私にとってJCは、将来を見据えもっと永く、もっと大きなまちづくりが出来るよう、その力を身につける為の道場であり、まちづくりは大きな目標であります。その為に今出来る事として、直向きに努力し、信頼される人間関係の礎を構築する事にあるように思います。2011年度は総務委員長という大役を仰せつかりました。2013年11月までに公益法人法改正に基づき、社団法人を新しい公益法人として移行せねばなりません。今回私はその移行をスムーズ出来るよう準備を行う事を柱に、各委員会における事業の運営のサポートや、運営管理体制をしっかりと整えて行くつもりです。また、西大寺JCの未来にかけて「会員拡大」にも全力で取り組み、将来のまちづくりの為、信用信頼における“自分づくり”を行っていきたくと思います。本年度も何卒宜しくお願いを申し上げます



総務委員会  
委員長 坪井綾広

新年明けましておめでとうございます。

本年度、文化継承委員会委員長を務めさせていただくことになりました藤本です。

入会して三年目にして委員長を務めさせていただくことになり、身の引き締まる思いがしております。

文化継承委員会の担当事業のメインは『少年はだか祭り』です。

『少年はだか祭り』は今年で四十回を数える西大寺青年会議所が誇る伝統事業であり、その担当委員長ということで責任の重さを感じておりますが、四十年目という節目の年に委員長をさせていただけることに高揚もしております。『少年はだか祭り』の歴史をしっかりと守りながら、新たなことにも挑戦していきたくと思っています。

私にとって本年度は『修練』の年であると思います。今年一年いくつもの壁にぶつかるとは思いますが、『奉仕』の心を忘れず、メンバーの『友情』に支えられながら一年間、青年会議所の一員として、また委員長として力の限り頑張っていきたいと思っております。



文化継承委員会委員長  
藤本成浩

本年度、地域連携委員会の委員長を務めさせていただきます國本秀範と申します。

委員長は初めてなので、委員会メンバーの協力のもと、一年間精一杯頑張ります。

委員会の担当事業としては、新年祝賀会の開催や岡山盲ろう者友の会への支援、そして地域との交流を考える事業など、対外的な事業が主となります。また本年度は、地域との交流を考える事業の中で、キャンプという新たな取り組みを考えております。

昨年度、西大寺青年会議所は創立五十周年を迎え、本年度からはまた新たに歴史を刻んでいく大事な一年だと思っています。

JCの三信条である「修練・奉仕・友情」を常に考えて、一年間頑張ってお参りますので、ご指導ご協力の程宜しくお願いたします。



地域連携委員会  
委員長 國本秀範



新年明けましておめでとうございます。

本年度、第51代井上裕嗣理事長のもと、岡山ブロックじゃがいも大会実行委員会、副委員長を務めさせて頂く長谷川豪範です。入会して3年目で初めての役員という大役を頂き、戸惑う事ばかりですが、今年のスローガン「imagine～すべては未来のために～」を胸に、自分自身の成長の糧として勉強しながら務めさせて頂きたいと思ひます。

本年は18名のスタートとなり、少ないメンバーでの岡山ブロックじゃがいも大会の運営となります。昨年の50周年記念事業で見た西大寺青年会議所の団結力をもって、メンバー一同一丸となりすばらしい岡山ブロックじゃがいも大会を運営したいと思っております。塩崎委員長と共に全力で取り組んでいきたいと思ひますので一年間よろしくお願ひ致します。



ブロックじゃがいも大会  
副実行委員長 長谷川豪範



監事 小野田 竜也

西大寺青年会議所メンバーの皆様、新年明けましておめでとうございます。今年には私もいよいよラストイヤーとなり、併せて監事という大役を任命される事になりました。私は西大寺JCに入会して7年目を迎えるのですが、今までは責任のある大きな役を務めたことはありませんし、JCについてもまだまだ解らない事ばかりで監事というのはどうかと考へましたが、あと1年という事もあり、最後に役に立つのであればという気持ちでお受けしました。

今年、18名からのスタートという事で、少ないメンバーではありますが、私自身も監事としてだけでなく、各委員会の役に立てる事があれば、積極的に活動に参加をしたいと思っておりますし、本業である監事としても気づいた事、気になった事についてはしっかり意見を述べたいと思っております。

最後になりますが、西大寺JCの良い所は、皆一丸となって事業を進めていく事だと思ひます。今年の理事長である井上理事長をしっかり盛り立てて務めさせて頂きたいと思ひます。至らないところもあると思ひますが、今年1年間宜しくお願ひ申し上げます。

## 1月例会



先般1月12日に2011年度1月例会が開催されました。

1月の担当は地域連携委員会ということで、計画から当日の運営までを当委員会で設営させていただきました。まずは井上理事長初の点鐘からスタートし、熱い想いと今年度のスローガン「Imagine」サブタイトル「すべては未来のために」の発表がありました。委員会報告では、新会員候補の入会がほぼ決定といううれしい報告、新委員長二人からの緊張を感じられる報告と、新しい年度がスタートしたことがすぐ感じられました。委員会アワーでは各委員会が今年度の事業説明、JC運動に対する意気込み、豊富を語りました。各委員会、JC活動を通して新しいメンバーと協力しあい、友情を育み修練に励んでいくことになると思ひます。今年度は18名という少人数のスタートとなりましたが、心をついにスタートをきることができました。今年度最初の事業を地域連携委員会のメンバーとして、課題の残る内容ではありましたが終えることができました。ご協力、ご指導いただいた皆様、大変ありがとうございました。今年1年、井上理事長を支え、がんばっていきましょう。

地域連携委員会 中西 秀和





# 新年祝賀会



先日17日『西大寺グランドホテル』にて2011年度新年祝賀会が行われました。井上理事長、國本委員長の本年度最初の事業という事もあり、緊張感漂うスタートとなりました。しかしながら、理事長挨拶では井上理事長らしいカッコいい言い回しと、熱い思いのこもった挨拶に感動しました。また國本委員長も初めて『委員長』という大役を任せられ、初めて運営したとは思えない程、スムーズな進行で無事やりとげました。本当にお疲れ様でした。

また話は変わりますが、ご祝辞を頂戴しました松田様のお言葉には本当に今年一年間を乗り越えていく為の勇気を頂けたように思えます。特に『守る事よりも次に進もうとする事が大切です。それが実は守る事につながるのです』の言葉には、どこか自分の気持ちが奮い立った気がしました。

西大寺青年会議所は昨年『50周年』という節目の年を迎えました。伝統ある会議所の名に相応しく、守るべきものは守る。また変わり進化していくべきものには臆す事無く挑戦する。これが現役会員の私たちが本当の意味で『伝統を守る』事であると教わった今年の新年祝賀会でした。皆様、お疲れ様でした！

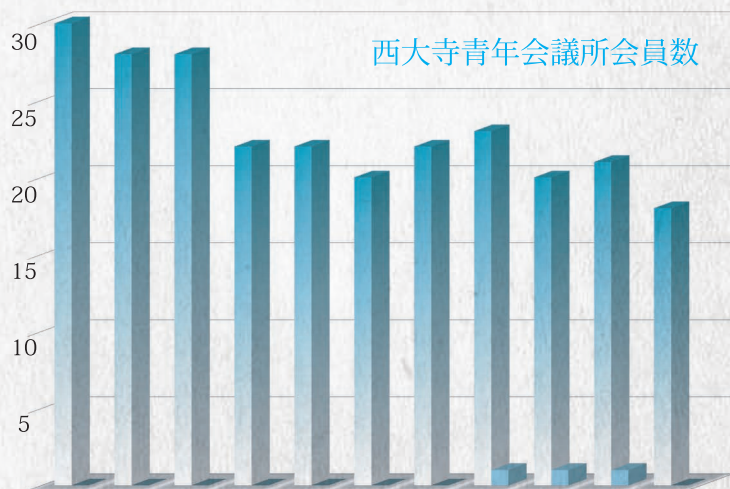
地域連携委員会 藤原 辰徳

## 会員状況

全国LOM数 704LOM

全国会員総数 35,149名 (平成23年 1月1日現在)  
うち女性会員数 2,186名 (平成22年12月1日現在)

西大寺JC会員数 18名 (平成23年 1月1日現在)  
うち女性会員数 0名 (平成23年 1月1日現在)



	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
男性会員	30人	28人	28人	22人	22人	20人	22人	23人	20人	21人	18人
女性会員	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	1人	0人

各年1月1日調べ

発行日 平成23年1月吉日  
発行責任者 井上 裕嗣  
発行責任者 三枝 克守  
編集責任者 長谷川 豪範  
発行所 社団法人西大寺青年会議所